

司式 ローレンス・スパーク 宣教師
奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏
開 会 招 詞

- * 賛 美 歌 91:1 主をほめうたえ、その聖所(せいじよ)にて
主をほめうたえ、その聖所(せいじよ)にて、主をさんびせよ、
主のとりでなる おおぞらでほめよ、つよきちからの みわざのゆえに
主のみなをほめよ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去つ
てください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。ア - メン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

- * 賛 美 歌 80:1 人生の海の嵐に
人生の海の嵐に 揉まれ来しこの身も 不思議なる神の手により
命拾いしぬ。いと静けき港に着き 我は今安ろう
救い主イエスの手にある身はいとも安し アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書 14 復活節第一主日 受難週

恵み深い父なる神さま、御子イエス・キリストは、救いの約束を実現させるため、ろばの子に乗って、エルサレムに入られました。十字架に向かって行かれた主は、わたしたちが会う全ての試練を受け、しかも罪はなく、試練と誘惑に勝利されました。

それゆえ、主は、わたしたちを、あらゆる試練の中で助けることができ、神に従う力を与えてくださることを信じます。

(マタイ21、ヘブライ2、ゼカリヤ9)

献 金 (黒)教会活動 (赤)静岡盲人伝道センター 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ヨハネ福音書13章1~17節(新約聖書194頁)

説教・祈祷 「謙って仕える愛」 L・スパーリンク宣教師

* 賛美歌 38:2.5 いさおなき我を

2. 罪科の汚れ 洗うに由なし、イエス潔め給う、み許に我ゆく。

5. 頼りゆく者に 救いと命を イエス誓い給う、み許に我ゆく。アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65 父、み子、みたまの

父、み子、み霊のおおみ神に、ときわにたえせずみ栄えあれ。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老(司会・受付 次週:雨宮信長老)

本日 受付 1階:大日南隆夫・那珂信之執事 2階:星野房子執事 / ZOOMホスト・録音:
門脇光生

次週 受付 1階:若月学・森永美保執事 2階:加藤良明執事 / ZOOMホスト・録音:雨宮
信

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

説教題:「謙って仕える」救い主の謙りとその民に求められる謙遜をめぐって

参照:ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 55、107

説教者:ローレンス・スパーリンク(キリスト改革派日本伝道会宣教師)

中心的主張点: 忠実な主の民はイエス様の模範に習い、謙って仕える思いと、姿勢と、行動を常に大切にする。「偉くなりたいたいと思う者は皆に仕える者」となろう。

聖書箇所:ヨハネによる福音書13章1-17節(新協同訳聖書、新約聖書194頁)

さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか?」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにすることが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。はっきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

(以上が神様のみことばです。主に感謝します。)

序説: 北朝鮮の宣教師任命式で足を洗うように頼まれた時。(イザヤ書52章7節)

あまり細かく話すわけにはいきませんが、十数年前に、いわゆる脱北者の方の足を洗う儀式に参加しました。彼の奥さんと二人の娘が飢饉のときに餓死して、彼は悲しみの中で中国の方に逃れて、十字架のついた建物に避難しました。その後、クリスチャンになった彼は聖書を暗唱する学びをして、DPRKに戻り、秘密の伝道活動に献身しました。その任命式の中で洗足式を行うのですが、彼の希望で、唯一の白人、アメリカ人、宣教師に足を洗ってもらいたいと申し出ました。なぜかというと、アメリカ人がみんな悪魔の使い、傲慢で、恐ろしいものであることを一生涯教えられてきたので、その情報が本当だったのか嘘だったのか、私のリスパンスで分かると考えていたからでした。私にとって、この人の足を洗わせていただくことが大きな特権でした。少しもためらいなく、感謝してこの任務を引き受け、実施しました。一生涯、忘れることはありません。

1、足を洗う慣習が大昔から、いろいろな意味で、どこの国にもある現象です。

古代のホスピタレティーの不可欠な一部分でした。例えば、アブラハムの例があります。創世記18:4には、旅人が現れた時にアブラハムが早速呼び寄せて、「水を出すから、どうぞ足を洗ってください。」と誘うのです。この類の例は他にも幾つかあります。

孔子の教えでは、ちょっと違います。人の足を洗うのは親孝行の一部です。年上の者に仕える美德を大切にする。つまり、若者が年配の方の足を洗うわけです。

調べてみたら、時代劇にも見られる現象です!お宿の玄関前に備えあり。土足禁止。とにかく、ベッドに入る前 足を綺麗にせよ。時代劇では、自分で自分の足を洗うか、でなければ、身分の低い女中に洗ってもらおうのですね。

イスラム教では(他の宗教もそうですが)、身を清める必要があると考えます。神社にもエルサレムの神殿にも同じ常識があります。頭と手と足を洗って、口の中を水で清めてからお祈りします。(でも、私たちは今は消毒剤で手を清めていますね!)

それから、足湯は多分日本にしかないものですね!とても気持ちいい方法です。

2、聖書でたまたま課題が出るくるいくつかの箇所を確認しましょう。

ダビデ王の話が何回かあります。バトシェバという女性で姦通の罪を犯して、彼女が妊娠しているとダビデが聞いた時に、戦場に行っていた彼女の夫ウリヤを呼び寄せて、報告を聞いたら、ウリヤに「お家に帰って足を洗ったら」と勧めました。その意味はもちろん、「このチャンスをつかんで、妻と肉体的関係をどうぞ」でした。自分の罪を隠そうとするダビデでした。(サム下11:8)

もう一つの事件はアビゲールという女性が寡婦になった時に、ダビデ王がプロポーズされたら、彼女はダビデが送った使いに、謙遜な姿勢を示しました。ダビデ王のご希望でしたら、王様のしもべたちの足を洗わせていただきます、と答えます。(サム上25:41)

新約聖書で登場するパリサイ派の人たちのいろいろなこだわりが伺えます。足は別に、手を洗うことに熱心でした。でももちろん、足もそうだったようです。エルサレム中にある古代の「洗礼槽」が多いことが証します。ただ、上辺と心の実態の差がある人たちでした。

そのあるシモンという人がイエス様を自分の家に誘って食事を出したところで、最低限の気も使わない失礼をします。あるいわゆる罪深い女性のみだりに入ってきて、涙でイエス様の足を塗らせ、髪の毛で拭き取ります。その時にイエス様は彼女を裁きつけるシモンに、入ってきた時に足を洗う水すら出さなかったではないか。だが、この女性は悔い改めと感謝の波でそうしている、と、彼女の行動を評価してください。(ルカ伝7:44ffを参照)

3、では、ヨハネ伝13章のセッティングを確認しましょう。

最後の晩餐(過越祭)で聖餐式を制定するところです。過越祭は、大昔、イスラエル人がエジプトで奴隷になっていた時、神様が彼らのために大なる救いを実施して、彼らをそこから導き出すわけです。この救いを記念するお祭りです。4つの福音書でこの木曜日の晩に行われた会話など記していますが、ヨハネが最も豊かな内容を記録しています。不思議なことに、聖餐式そのものの制定を記していません。一方、この足を洗うことをヨハネだけが記録を残しています。4つの福音書を読み合わせると、いろいろなことがよりよく分かります。

ここでイエス様は、翌日の朝、彼ら(我ら)のために己を犠牲にし、十字架にかけられる苦しみを前にしているときに「誰が一番偉いか」と弟子たちは言い張ったりしていました。(ルカ伝22:27)「ねえ、イエス様がもうじき王様になるのだから、俺は財務大臣になるぞ」とか主張するわけですね。こんなつまらない議論は前にもあったのですが、イエス様の愛と忍耐に限りがないことをその行動でわかります。食卓から立ち上がり、上着を外し、女中みたいな姿となります。彼らの足洗いの水を差し出すだけでなく、実際に彼らの間を回って、彼らの足を洗ってくださる。

この時に彼らが非常に驚いたことが彼らの沈黙、またペテロの反応でわかります。イエス様は弟子たちの常識をひっくり返してしまいます。

イエス様の意図がはっきりしています。ある方々は、イエス様はここで「洗足式」の聖礼典を制定しておられるのではないかと言ひ、受難週になりますと、木曜日の晩、洗足式を行うようになっていくキリスト教会もあります。でも、イエス様のお言葉によって、ご自身の意図がはっきりしています。「あなたがたに模範を示したのである。」とおっしゃるので。これ以上、儀式の制定だというような余計な解釈をする必要はありません。

しかし、考えてください。お言葉一つで恐ろしい嵐を静め、手を出して触れると難病を癒し、権威を持って教えるこの方が足を洗うって! 私たちも不思議に思うほどではありませんか。

4、イエス様にしかしていただけない清めの技があります。

それをペテロたちに話したことによって示されています。「あなたがたはすでに清くなっている」と言います。ご自身を主と呼び、信じて従う人なら誰にでも神様の一方的恵みによって義と認められて罪が赦されているわけです。救われています。清いのです。これを「義認の恵み」というのですね。罪が全て永遠に赦されています。キリストが身代わりとして贖いの代価を支払ってくださったために、信じる全ての者に、私たちに、与えられている恵みです。

けれども、これに続く清めていただくさらなる清めがあります。これを「聖化の恵み」と言います。私たち、罪が残っている「汚れた」者に手を差し伸べて、清くしてください。これは救われた者の一生涯に渡って与えられ続ける恵みです。お祓いをしていただくこととは違います。終生まで、主の民の交わりの中で、共に励み、信仰を深めて、御心に叶う者として徐々に前進していくことです。義認と聖化はワンセットです。義認は一度だけ、聖化は継続的に与えられる恵みです。この両者からイエス様の救いが成り立ちます。イエス様に足を洗っていただくことはどちらかと言いますと、後者(聖化)の方です。

でも考えてみましょう。十字架上のイエス様を見上げて信じるのと、自分の足をイエス様に触っていただき、洗っていただくのと、どちらが難しいでしょうか。ペテロの気持ちと反応を見れば、わかる気がします。我らの気持ち どの

が表れるでしょうか。十字架の苦しみによって救いを獲得してください。見上げて信じて、感謝することを求められます。そうしていらっしゃるでしょうか？でも、神の独り子が最も身分の低い僕の姿を取り、自分の前に跪いて、容器から水を汲み、自分の足をご自身の手にとって洗い、タオルで拭きあげてくださいます。十字架を見上げることよりはるかにパーソナルな関係になるのではないのでしょうか。私だったら恥ずかしくて、ペテロのように、「私の足を決して洗わないでください」と言い出したくなります。皆さんはいかがでしょう。

親は愛する我が子のために、どんなにつまらないことがあっても愛を持って関わってください。でも、イエス様の行動はこれをはるかに超えています。赤ちゃんのお尻を拭くことではなく、強盗に襲われた怪我人の傷を洗って救うことではないでしょうか。まさに良きサマリヤ人の姿ではありませんか。

「わたしがあなた方にしたことが分かるか？」とイエス様が聞きます。弟子たちにこう答えて欲しかったではないでしょうか。「はい、我が救いの主、感謝！」と。残念ながら、そこまでは行きません。非常に複雑な心境です。聖餐式の制定もあります。その時点、この意味についてよくわからなかったでしょう。それから、自分の仲間がイエス様を裏切り、皆散っていかれることになっていると言われれば、なお心細い事でしょう。ですから、ヨハネ伝を読み続けて行けば、イエス様の励ましの言葉、聖霊を送るから安心しなさいとの約束、彼らのために祈る事に続きます。主の受難を覚えるこの季節にぜひこれらの箇所をゆっくりと読み返す事を勧めます。でも今日は、終わりに、イエス様の質問に集中し、もう一度聞きます。「わたしがあなた方にしたことが分かるか？」

決論：「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」イスカリオテのユダの足でさえ、イエス様が洗ってくださいました。イエス様のこういう行動は皮膚に着いてしまった汚れを洗い落とすものではありません。心が綺麗になるように、私たちにも全ての人にも仕える者になってくださいました。では、私たちはどのようにしてお互いに仕え合うのでしょうか。どのように、まことの謙遜を身につけて、救いをもっと大勢の人に与えられるように、主の模範に習い、神様に喜ばれる僕となっていくのでしょうか。「忠実な主の民はイエス様の模範に習い、謙って仕える思いと、姿勢と、行動を常に大切にす。」私たちは今日、このようにする覚悟を決めているのでしょうか。このように救いがさらに広まり、私たちは徐々に聖なるものと成長いくに違いありません。まず、教会の交わりの中でお互いに仕え合う。そして次第に苦しい状態にある方々に仕える。主の恵みを祈り求めましょう。

祈祷：

主イエス様、すべてのものをお造りになった全能の主でおられるあなたの御名を賛美いたします。しかし、あなたはご自身の栄光の御座を後にして、自分を無にして、僕の身分となり、謙って十字架の死に至るまで従順でした。これは罪の裁きを受けるべきだった私たちの身代わりとなり、救いだすためでした。この救いの技を心から感謝いたします。さらに、救いに入れてくださってもなお、私たちに残っている汚れを徐々に生活の中で洗い落とす救い主でもいらっやいます。お弟子さんの足を洗う姿を見ることによってよく示してくださいました。ご自身の弟子となるように呼び出してくださいました。そして、ご自身の救いがさらに広まるように、ご自身の模範に習い、お互いの足を、罪の汚れに悩む世の人の足を洗う僕となるように、任命してください。どうか、私たちを思い上がりや傲慢から守ってください。仕える姿勢を保ち、あなたに評価していただくことができますようにお助けください。聖化の道を辿りつつ、世の人々にあなたの救いの知らせを広く伝えることができますようにお助けください。私たちの愛し合い、仕え合う姿を見て、あなたの弟子であることを認め、あなたをほめたたえながら立ち返る仲間を大勢増し加えてください。主ご自身のお名前によってお祈り致します。